



名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS

名古屋芸術大学
ウインドシンフォニー

第2回

定期演奏会

いざ開け、黄金の門よ

2022.12.13 *tue.*

18:00 開場 / 18:45 開演

日本特殊陶業市民会館フォレストホール



名古屋芸術大学
NAGOYA UNIVERSITY
OF THE ARTS

主催：名古屋芸術大学 / 後援：名古屋芸術大学音楽同窓会

ご挨拶

本日はお忙しい中、名古屋芸術大学ウインドシンフォニー第2回定期演奏会～いざ開け、黄金の門よ～にご来場いただきありがとうございます。この団体は音楽大学などを卒業して間もない若手演奏家に演奏機会を提供すると共に、音楽を学ぶ学生たちに高いレベルのアンサンブルを体感してもらう事を目的に結成されました。また若手や学生だけでなく経験豊富なプレイヤーに参加していただく事で、よりクオリティーの高い演奏を目指したいと考えております。

2回目となる今回は、本学において指揮法などで学生とも深く関わっていただいている高谷光信先生の指揮でお送りします。高谷先生はウクライナ・チェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団常任指揮者を務めておられ、昨今の世界情勢の中ウクライナで音楽を奏でる機会を奪われてしまっています。今回のメインとなる「展覧会の絵」には先生の強い想いが込められています。またソリストとしてお迎えした亀居優斗さんは愛知県出身の新進気鋭の演奏家です。共演する学生たちにとっては大きな刺激となることでしょう。学生や若手と熟練の演奏家のハーモニーを最後までご堪能いただければ幸いです。

名古屋芸術大学 准教授 遠藤宏幸

本日は名古屋芸術大学ウインドシンフォニー第2回定期演奏会～いざ開け、黄金の門よ～にお越しいただき誠にありがとうございます。学生達にとって、これまでのかけがえのない日々を集大成ともいえる演奏を、お楽しみいただければ幸いです。そして、プロ奏者またソリストの亀居優斗さんのプロフェッショナルな吹奏楽サウンドをお届けいたします。

さて、私は長年ウクライナ・チェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団の常任指揮者を務めておりますが、本日演奏する「展覧会の絵」の終曲『キーウの大門』は、キーウ大公国時代に存在した中央門を指します。ウクライナの原点とも言えるその門は“黄金の門”と呼ばれ、ウクライナの人々にとって象徴的建造物となっています。作曲家のムソルグスキーはロシア人であり、展覧会の絵はロシア作品となりますが、この曲にはムソルグスキーが親友を失った悲しみを美しい思い出へと昇華させていく想いが込められています。作曲家 團伊玖磨氏らによる著書『追跡 ムソルグスキー「展覧会の絵」』（日本放送出版協会）には「ムソルグスキーの友情、暖かさによって門は永久に滅びぬ“音楽”の中に立派に“才能”の凱歌として建ち上がったのである。壮大な夢の大門の中に、親友を悼み、その魂を鎮め、送る古い賛美歌が聞こえるのはそのためである」と記されています。

音楽に国境はありません。固く閉ざされた門を開き、国境を越えて人々を癒し、慰め、明日への活力を平等に与えるものであると私は信じています。

—いざ開け、黄金の門よ！—

名古屋芸術大学 非常勤講師 高谷光信

Program

プログラム

J. フチーク

フローレンティナーマーチ

Julius Fucik / Florentiner March

F. チェザリーニ

ウクライナ狂詩曲

Franco Cesarini / Ukrainian Rhapsody

P. スパーク

クラリネット協奏曲

Philip Sparke / Clarinet Concerto

クラリネット独奏 亀居 優斗

休憩

M. ムソルグスキー (M. ハイNZズレー編曲)

組曲「展覧会の絵」

Modest Petrovich Mussorgsky (Mark Hindsley)/

Pictures At An Exhibition

Biography 略歴

名古屋芸術大学 ウインドシンフォニー

若手演奏家育成と、学生が高いレベルでのアンサンブルを学べる場を提供する事を目的に2021年に結成されたハイブリッド型の吹奏楽団。名古屋芸術大学の教員や名古屋で活躍するトッププロ、名古屋芸術大学の卒業生を中心に20~30代の若手演奏家、オーディションや教員による推薦によって選ばれた名古屋芸術大学芸術学部音楽領域弦管打コース、ウインドアカデミーコースに所属する学生、大学院生によって構成されている。演奏会やそのリハーサルなどを通して、名古屋芸術大学の講師やプロプレーヤーが学生や若手演奏家に対して直接演奏指導することで、演奏だけでなく教育的役割も担っている。2022年1月には愛知県芸術劇場において作曲家鈴木英史氏の指揮により第1回定期演奏会「師弟の系譜」を開催し好評を得た。定期公演のほか、地域での演奏活動やクリニック等幅広く活動し、レパートリーはクラシックからポップスまで多岐にわたる。



wind symphony



指揮 高谷 光信 *conductor*

東京混声合唱団指揮者。ウクライナ・チェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団常任指揮者。MusikEngel 合唱団音楽監督。四条崎市市民総合センター芸術監督。一般社団法人日本ウクライナ音楽協会理事長。ウクライナ国立チャイコフスキー記念音楽院指揮科首席卒業。国家演奏資格ディプロマを取得。指揮を故小松一彦、故伊吹新一、田中良和、藏野雅彦、辻井清幸、V. ブラソフ、故 E. ドゥーシェンコ、N. スーカッチに師事。2003 年ウクライナ・チェルニーヒウフィルハーモニー交響楽団の定期演奏会に登壇しプロデビューを果たす。首席客演指揮者(2003~2006)第2指揮者(2006~2012)常任指揮者(2012~)に就任。『ウクライナ国際ホロヴィッツピアノアカデミー』『ウクライナ国際シヴィール音楽祭』『ウクライナ国際音楽祭・キエウ夏の音楽の夕べ』『ウクライナ国際バルトケーヴィッチ音楽祭』に出演。2010年より『ウクライナ国際指揮マスタークラス』の講師・審査員を務める。現在までに東京混声合唱団、神戸市混声合唱団、ウクライナ国立ドゥムカ合唱団、ウクライナ国立ボルトニャンスキー室内合唱団大阪交響楽団、京都フィルハーモニー室内合奏団、兵庫芸術センター管弦楽団、セントラル愛知交響楽団、テレマン室内オーケストラ、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、東京室内オーケストラ、愛知室内オーケストラ、神戸市室内合奏団などを指揮。《題名のない音楽会》(Osaka Shion Wind Orchestra 2014年11月23日放送)に出演。2017年よりフジコ・ヘミングと共演を重ねる。大阪芸術大学演奏学科客員准教授。名古屋芸術大学大学院音楽研究科・芸術学部音楽領域、武庫川女子大学音楽学部、各講師。第16回京都芸術祭京都市長賞 受賞(2002年京都)。チェルニーヒウ州文化功労賞 受賞(2012年7月ウクライナ)。チェルニーヒウ州行政長 文化功労感謝状 受彰(2019年7月ウクライナ)。

クラリネット独奏 亀居 優斗 *clarinet*

愛知県出身。愛知県立明和高等学校音楽科を経て、東京藝術大学を卒業。2017年度青山音楽財団奨学生、瀬木芸術財団短期海外研修奨学生。第15回クラリネットアンサンブルコンクール一般部門第1位併せてグランプリ。第87回日本音楽コンクール入選。第17回東京音楽コンクール第3位、併せて聴衆賞受賞。第30回日本木管コンクール第2位。第10回日本クラリネットコンクール第2位。第19回東京音楽コンクール第2位(最高位)、併せて聴衆賞受賞。第90回日本音楽コンクール第1位、併せて瀬木賞、E. ナカミチ賞受賞。読響、新日本フィル、名古屋フィルなど各オーケストラと共演を重ねる。これまでに浅井崇子、井上京、伊藤圭、亀井良信の各氏に師事。R. ギュイオのマスタークラスを受講。The Narmen Clarinet Ensemble メンバー。東京佼成ウインドオーケストラ楽団員を経て神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席クラリネット奏者。



Members Introduction

名古屋芸術大学ウインドシンフォニー
パート・メンバー紹介

Concertmaster 竹内雅一

Flute 新野智子(フリーランス) / 星野奈菜美(フリーランス)
松原未弥(フリーランス) / 牧実央(本学4年) / 福田京(本学2年)

Oboe 石田正(一宮市消防音楽隊) / 松本彩見(本学ディプロマコース)

Bassoon 横川瞭(フリーランス) / 井手口彩子(フリーランス) / 佐保春奈(本学大学院1年) / 馬詰夢野(本学4年)

Clarinet 竹内雅一(本学教授) / 伊藤美佳里(フリーランス) / 水野沙織(Clarinet Ensemble みたらしだんご)
平野藍(Clarinet Ensemble みたらしだんご) / 松本有可(Clarinet Ensemble みたらしだんご)
岩倉彩乃(IRIS Clarinet Ensemble) / 黒住恭子(IRIS Clarinet Ensemble) / 岩谷優花(フリーランス)
小川陽菜乃(本学4年) / 小野澤諒(本学4年) / 中山琴葉(本学4年) / 浅田若菜(本学3年)
今井翔大(本学3年) / 谷平篤史(本学3年) / 野原綾乃(本学3年) / 速水咲季(本学3年) / 平岩終(本学3年)

Saxophone 遠藤宏幸(本学准教授) / 所克頼(New moon saxophone quartet) / 浅井ゆかり(New moon Saxphone quartet)
山崎力愛(New moon saxophone quartet) / 中村拓矢(本学3年) / 松平安奈(本学3年) / 大角琳(本学2年)
西尾香凜(本学2年)

Horn 梶井健吾(名古屋アカデミックウインズ) / 後藤美紗子(フリーランス) / 赤堀めぐみ(フリーランス)
上杉沙代(一宮市消防音楽隊) / 吉松隼(フリーランス) / 金原陵太(本学4年)

Trumpet 松山英司(本学非常勤講師) / 小池憲司(フリーランス) / 坂本敦(名古屋フィルハーモニー交響楽団)
中家亜里紗(BRASS BANK) / 有蘭利彦(BRASS BANK) / 小坂井遙菜(フリーランス) / 山本康平(フリーランス)
高垣りお(本学3年) / 佐藤真梨菜(本学2年)

Trombone 藤澤伸行(元名古屋フィルハーモニー交響楽団) / 鈴木絵美(トロンボーンエンジェルス) / 水野雅成(BRASS BANK)
高田和響(一宮市消防音楽隊) / 松下沙樹(本学4年) / 築山稔憲(本学3年)

Euphonium 櫻本明日実(本学非常勤講師) / 武田彩花(名古屋市消防音楽隊) / 鈴木貴翔(本学3年) / 榎下香音(本学3年)

Tuba 加藤日名子(本学非常勤講師) / 市川紘(名古屋アカデミックウインズ) / 佐藤颯良(本学3年) / 水野はるか(本学3年)

Contrabass 伊藤玉木(New Tones) / 齋田裕夢(本学4年)

Timpani 深町浩司(愛知県立芸術大学教授)

Percussion 稲垣佑馬(本学非常勤講師) / 手嶋莉子(一宮市消防音楽隊) / 弓立翔哉(名古屋音楽大学附属アカデミー講師)
岩佐桃歌(本学4年) / 都築陽奈(本学2年)

Harp 川出優奈(フリーランス)

Celesta 棚澤実尋(本学2年)

Inspector 山崎力愛 / 黒住恭子 / 小坂井遙菜

Librarian 馬詰夢野

Program Note プログラムノート

曲目解説：松山英司

J. フチーク

フローレンティナーマーチ

Florentiner March

J. フチーク(チェコ語: Julius Arnošt Vilém Fučík ドイツ語: Julius Ernst Wilhelm Fučík)はチェコの作曲家、軍楽隊指揮者(1872年6月18日-1916年9月15日)。ドヴォルザークに作曲を師事。300曲以上の行進曲やポルカ、ウィнна・ワルツを作曲して名を馳せ、「剣闘士の入場」(作品番号 68、1897年作曲)が現在、最も有名な彼の作品である。作品のほとんどが軍楽隊のために作曲されていることから、時に「ボヘミアのソーザ」とも呼ばれ、現在でもチェコではフチークの行進曲が愛国的な楽曲として演奏されている。今回演奏する本作は1907年に作曲され、作品番号214番。彼が35歳の時の作品。曲名の「Florentiner」は、ドイツ語で「フローレンスの」という意。「フローレンス」は、北イタリアにある「フィレンツェ」のこと。彼が「イタリア・フィレンツェ」を旅行した際に作曲したもので、当初は「トスカーナのばら」と名付けられるが後に現題に改められる。曲は変ホ長調で始まり、中間部では下属調にあたる変イ長調に転調、2/4拍子で終結部はテンポを少し落とす等、いわゆるグランドマーチとして書かれ、明るく大らかなメロディーの中に彼の南ヨーロッパへの憧れを描いていると言われている。

F. チェザリーニ

ウクライナ狂詩曲

Ukrainian Rhapsody

F. チェザリーニ(Franco Cesarini)は、スイスの作曲家、指揮者、フルート奏者(1961年4月18日-)。日本においては、主に吹奏楽編成による楽曲の作曲者として知られる。ルガーノやバーゼルの音楽院、ミラノ音楽院でピアノとフルートを学び、またペーター＝ルーカス・グラーフらに師事して音楽理論と指揮法を学ぶ。現在は、創作活動のほか、イタリアのクラシック曲からの吹奏楽編曲や古いイタリアの吹奏楽曲の現代吹奏楽編成への改編も多く手がけており、現代吹奏楽を代表する作曲家のひとり。本作は狂詩曲の名が示す通り、民族的な作品。ウクライナは国土 600,000 平方キロメートル以上、5,000 万人以上の人々が暮らす国。北部に広大な森、西部に山脈や谷があり、中部や南部には肥沃な草原をもち、国土を分割するように流れるドニエプル河により東部と西部に分けられ、各地方に多くの魅力的な民謡が存在する。本作品はそういった民謡のメロディーと民間伝承に触発され、1994年に作曲された。曲は3つの部分からなり、途切れることなく連続で演奏される。緩やかなテンポで始まり、その後非常に表情豊かな部分に入り、最後はウクライナの民俗舞踊「ゴパック」でエネルギッシュなクライマックスを迎え、曲を締めくくる。

P. スパーク

クラリネット協奏曲

Clarinet Concerto

P. スパーク(Philip Sparke)は、イギリスの作曲家(1951年12月29日-)。王立音楽大学(RCM)にてトランペット、ピアノ、作曲を学ぶ。アメリカ空軍バンドからの委嘱で作曲した『ダンス・ムーブメント』で1997年にサドラー国際作曲賞、2005年に『宇宙の音楽』、2016年に交響曲第3番『色彩交響曲(カラー・シンフォニー)』でNBAレヴェリ作曲コンテストの最優秀賞に輝く等、輝かしい受賞歴と共にプラスバンド(英国式金管バンド)および吹奏楽のための作品で知られる。東日本大震災に際しては『陽はまた昇る』を贈るなど日本との関わりも深く、イギリス、アメリカを始めとして、日本、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなどで広く作曲家・指揮者として活躍している。本作は2003年の作品。I. Giocoso - II. Adagio - III. Molto vivo という3楽章構成になっており、1楽章は発想記号(Giocoso)が示す通り、シンコペーションを多用した、楽しく生き生きとした曲想。対して2楽章はクラリネットのシャリユモ音域(低音域)を使用した幻想的な曲想で始まり、その後カデンツァを挟み切れ目なく3楽章へ。3楽章はピ・バップスタイルで書かれ、アップテンポでエネルギッシュに曲は進み、クラリネットのjazzyな側面を垣間見る事ができる。

M. ムソルグスキー (M. ハイNZレー編曲)

組曲「展覧会の絵」

Pictures At An Exhibition

M. ムソルグスキー(Modest Petrovich Mussorgsky)はロシアの作曲家(1839年3月21日-1881年3月28日)。バラキレフ、キューイ、ボロディン、リムスキー＝コルサコフらと共に「ロシア五人組」と呼ばれる。1856年に近衛連隊に入隊しそこで軍医であったボロディンに、1857年にバラキエフとキューイに出会った彼は作曲家の道へ進む。1870年頃に画家のヴィクトル・ハルトマンと出会い、2人は親友となるが彼は39歳(1873年)で動脈瘤によりこの世を去る。本作「展覧会の絵」は、1874年の2月から3月にかけてペテルブルク美術アカデミーにて展示されたハルトマンの遺作展で感銘を受けた10枚の絵を元に、同年7月、ピアノのための組曲『展覧会の絵』を作曲。しかしムソルグスキーの生前には一度も演奏されず、リムスキー＝コルサコフの手により1886年に出版される(いわゆるリムスキー＝コルサコフ版。現在は1874年に作曲された原典版とは区別されている)。その後、1891年にリムスキー＝コルサコフの弟子であったミハイル・トッシュマロフが初めてこの曲の一部のオーケストラ編曲を行って以降さまざまな編曲がなされたが、1922年モーリス・ラヴェルが手掛けたオーケストラ編曲版が非常に有名である。数多くある吹奏楽編成への編曲のうち、今回は原曲の魅力を最大限に生かす形で編曲されたマーク・ハイNZレー版を使用する。

賛助会員様(敬称略)

株式会社ソシオ 内外物産株式会社